

平成17(2005)年12月20日

# 第 30 号

# 世田谷稲門会会報

世田谷稲門会 一勲夫次  
谷倉澤島原 邦利  
世土細寺江 川村保夫  
行人集 編集

事務局 〒157-0067  
東京都世田谷区喜多見4-33-25  
TEL/FAX03-3417-7104

## 新年会

### 篠田正浩監督が講演

一月二十八日こまばエミナース

平成十八年新年会は一月二十八日(土) 四時三十分からこまばエミナースで開催することになった。

今回は講演者に篠田正浩映画監督を迎え、「私はどうしてゾルゲ(映画)を作ったかー情報社会とは何かー」という演題で講演していただく。

その後、懇親会、恒例のピング・ゲームなど楽しい企画が予定されている。また会場では今回も写真部会の会員の作品が展示される予定。  
会費は七千円。

### 篠田正浩氏 略歴



昭和六年、岐阜出身  
昭和二十四年早稲田大学  
第一文学部入学。  
昭和二十五年箱根駅伝に

出場。(二区を走る)

昭和二十八年卒業、松竹撮影所に入社。

昭和三十五年「恋の片道切符」で監督になる。その後、大島渚、吉田喜重らと共に、松竹ヌーベル・ヴァーグとして前衛的な作品を発表。昭和四十二年に妻の岩下志麻と独

立プロを設立。平成十三年早稲田大学特命教授。平成十五年「スパイ・ゾルゲ」を最後に監督業を引退。

主な作品とし 「心中天網島」、「沈黙」、「札幌オリンピック」、「瀬戸内少年野球団」、「少年時代」、「写楽」、「梟の城」、「スパイ・ゾルゲ」など。

日本アカデミー優秀作品賞、ブルーリボン賞、ベルリン映画祭銀熊賞など数々の賞を受賞。その他著作も多い。

二〇〇二年夏の地に移転してきたラグビー部は、二面の芝生に埋めつくされた練習グラウンドとその外周をめぐるアンツーカーの走路、そして合宿所・寮・ロッカー室等が整備されている。高さ二〇メートル程のネットで囲まれ緑豊かな環境は武蔵野の面影が十分に味わえる。現在部員は一二六名、サポートするスタッフは十八名で、部員はAの五級に分かれており、AB両級に属する精鋭が対抗戦を含む対外試合に出場する。

編集者が訪問した日は、早慶対抗戦を数日後に控え最後の調整と思われるが、バックス、フォワード等に分かれて実に熱のこもった練習風景に接することができた。

清宮克幸監督の「早稲田だからできること、早稲田でしかできないことを、つねに追求して欲しい」の希望を背負った部員達の真撃さに胸をうたれる。そして彼らの何よりの目標は日本一に成った時しか歌えない、ラグビー部の部歌「荒ぶる」を国立競技場の芝生の上で斉唱することにありという。

(川村保夫／撮影・細澤勲／記)

## ラグビー蹴球部・上井草グラウンド 母校の今 第4回



# 秋晴れの下、八千数百名が集う

## 稲門祭・ホームカミングデー

十月二十三日快晴の早稲田キャンパスで開催された「稲門祭・ホームカミングデー」には来場者新記録になる八千数百人の校友が集い、華やかに開催された。

記念会堂では昭和三十一年、三十六年、四十六年、五十六年卒業の校友が招待され、盛大な式典が催された。



大隈講堂では川渕キャプテン、北川教授の「校友講演会」や「校友音楽祭」が、また大隈庭園では二十三区支部、TWN、神奈川支部が担当した十二の模擬店が出店された。

世田谷稲門会は今年も「焼き鳥」販売を行なった。秋晴れの下、校友達はビールと焼き鳥片手にジャズ演奏、手品、チャリダーなどの催し物を

楽しみ、当会は三年連続完売第一号を記録した。

恒例の福引券も稲門会全体で二千五百五十万円を売上げ、目標を上回る事が出来た。世田谷稲門会の福引券販売は四十八万円で全国二位の記録となった。なお売上金の内、一千万円を創立百二十五周年記念事業募金に寄付する予定。

### 二十三区支部大会

三月二十二日開催予定

東京都二十三区支部大会は

平成十八年三月二十二日(水)

六時から大隈講堂で開催される予定。

今回は大学の「エクステンション講演会」とタイアップ

して、安く、より多くの稲門会員を結集する予定。

懇親会は大隈庭園。会費は

五千円程度。

大隈講堂は四月から全面改修工事に入り一年間使用できないため、改修前の最後の大きな会合になる。

## シャンソンとビールに酔う

### 納涼会エクセルホテル東急で開催

まだ残暑の厳しい八月二十七日(土)東京・渋谷のエクセルホテル東急六階の「プラネットスルーム」で世田谷稲門会の納涼会が開催され、会員、家族など七十五名が参加した。

午後六時鈴木宏治副会長の司会で土倉享一会長の挨拶、加藤栄一会員の乾杯の発声で会は始まった。

着席スタイルの和洋バイキングと飲み放題のフリードリンクで一息ついたところで、当日のゲスト・黒川泰子さんが魅力的なドレスを着こなし登場、北正則さんのピアノ伴奏で各席を回りながら美しい旋律と歌声でシャンソンを歌い上げ会場は一気に盛り上がった。さらに第二部では、カンツォーネ、ラテン、ハワイアン・ソングと様々な国の歌を披露し、参加者一同真夏のディナーショウを楽しんだ。

最後は細澤勲幹事の中締めのもと、岩上健一副会長のリードで校歌を斉唱し、午後八時お開きとなった。



## 部会だより

## 釣 り

- 7月14日 イサキ 勝浦喜美丸2名15匹潮動かず不漁  
 7月31日 アジ・花鯛 銚子八女丸 6名50匹/人  
 8月21日 ワカシ・サバ 茅ヶ崎沖右エ門丸 4名。台風後急に不漁となり0~4匹  
 溪流釣り終了 3月~9月 イワナ・アマゴ他柴田72匹  
 主として狩野川、寺島北海道にて鮭7匹  
 10月9日 ヒラメ 銚子八世丸 3名 各人60cm1匹  
 30日 ハゼ 江戸川河口 ボート釣り 8名 20~40匹 深みに落ちてなく小型 時期早尚  
 11月3日 イナダ・真鯛 茅ヶ崎沖右エ門丸 3名  
 イナダは60cm3~6匹他外道  
 11月13日 ヒラメ 銚子 4名  
 11月26日 鯛・カワハギ五目ボート釣り 網代  
 一泊上多賀「いなほ」。6名参加 泊6千円  
 (今後の予定)  
 12月23・25日 カワハギ釣り・ひらめ釣り  
 平成18年1月13日 18時より 銀座魚や一丁  
 新年会 会費3千円



沖釣りは毎月最終日曜日、磯釣りは月中土・日に伊豆城ヶ崎海岸でやっています。釣り部現在26名在籍していますが、一度も参加されない方もいるので、気楽に参加して下さい。(柴田 昇/記)

## スポーツ観戦

一変わるものと変わらないものー 早慶戦観戦記

10月28日(土)雨模様にもかかわらず34名の多数の参加があった。

スポーツ観戦部会に入部させていただき四十数年振りに学生席で早慶戦を観戦した。

まず、その景色の変わり様に驚かされた。

若々しいチアリーダー達の華のある応援。懐かしいフクちゃん姿が見られない事。

そして席はがらがら空席ばかり。



すでに法政の優勝が決まり、天気予報も雨という悪条件ではあったが。

しかし応援席は少数ながら我々世代のOB達を中心に昔ながらの熱気に溢れ、グラウンド上では選手も母校の名誉を背負って活躍。5対2の危なげない勝利で良いゲームであった。

最後にエール交換で「都の西北」を高らかに合唱。うたいながらあるスポーツのOBの言葉を思い出していた。

「我々は校歌を誰にも教わった事はなく神宮に来て覚えたものだ」と。今の学生は「都の西北」を三番まで正確にうたえるのだろうか隣の学生達を見ながら考えた。(麻生卓司/記)

## 写 真

今年後半からは例会を主体として、各自の作品を皆さんが披露しながら、種々のアドバイスやご指摘を受けて、作品のレベル向上を目指しました。場所は東京農大交友会館「グリーンアカデミーホール」に定着し、前回報告の6月20日以降、8月1日、9月12日、10月17日そして11月18日と4回連続で実施しました。毎回10名以上の出席で、各自が数枚以上のプリントを持参し、白板にマグネットを押さえにして作品を貼り出し説明して、皆さんのご意見を何う事で進行しています。それと豊田さんの提案で「ポジフィルム」の映写も行う事にしました。内容は風景とスナップです。例会の毎月1回開催は作品の用意が大変だと思いましたが、皆さん熱心に沢山持参されています。時には持参されない人もおられますが、他人の作品を見る事が勉強になると言われて参加されています。12月5日が最後になりますが、今年世田谷稲門会の新年会会場においてミニ写真展を実施し、好評だったようで来年も実施する事が決まりましたので「写真展に展示する作品」を何にするか決めるため各自の作品を持ち寄って決める事にしました。例会の連続開催は毎回、構図の問題、朝夕、雨、曇り、そして晴天の場合の撮影の違い、カメラの使い方、特にデジタルカメラ関係の話等、有益な知識が学べるので、作品のレベルアップに役立っています。最近皆さんの作品のレベルは上がっていますので、今後が楽しみです。来年も2月以降例会を毎月開催する予定です。最近では会員が増えて現在は22名です。

(代表世話人 種谷 鴻成/記)

## 食べ歩き

10月1日(土)平成17年度第1回例会を開催。参加者34名。今回は「羽衣」銀座店で寛いだ雰囲気の中で本格的中華のコース料理を賞味した。渡辺八郎氏の司会で進行。初参加の会員橋本大道氏の自己紹介の後、大須賀肇代表世話人より挨拶並びに会務報告を行った。その中で平成16年度当部会の事業報告、会計報告、監査報告(資料は既に先月中に全会員に送付済)提案があり満場一致で承認された。続いて麻生卓司氏の世話人退任に伴い岸田正和氏が世話人に新任され、就任の挨拶が行われた。松村秋森氏の発声により全員元気よく乾杯。懇親会は開宴し各テーブル共「羽衣」特製老酒の美酒に酔い歓談は尽きず大いに盛り上がった。鈴木宏治幹事長より10月23日の稲門祭への世田谷稲門会の対応及び参加要請、福引券の割当目標の大幅達成に対する謝辞等があった。岸田正和氏の閉会挨拶の後名残を惜しみつつ解散した。解散後は三三五五銀座の街の散策を行い、街並みに今もノレンを守り続ける伝統の老舗と世界最先端を行く新店舗が混然と息づき活況を呈している銀座の雰囲気を愉しんだ。

(大須賀肇/記)



## 囲碁将棋

恒例の秋の湯河原『杉の宿』の合宿を去る9月4~5日にかけて行なった。成城学園前駅より小田急で出発。残暑厳しい中を蝉時雨に迎えられて午後1時頃杉の宿に到着。総勢11名早速対局を開始する。日曜日の昼下がりのひととき、対局場には人影もまばら。周りの木々の間より、一頻り遅蝉の音が聞える。今回は志水一夫8段並びに大庭克治8段の参加を得て対局にも熱気がこもる。対局は一局又一局と時の経つのを忘れさせる。碁打ちの濃縮した充実した時間が過ぎてゆく。対局の合間を縫って三三五五に5階の展望露天風呂に行く。晩夏の暑い日差しを浴びた山並みの稜線は美しい。ほっとするひとときである。4~5局打って夜の宴を迎える。湯河原の海の幸をたっぷりのせた舟盛り。酒の味も染みる。飲み且つ食べた後は場所をカラオケ会場に移し、各人が十八番を披露する。11時を回ってから又碁に戻る。1時を過ぎた頃再び風呂へ。翌朝も早くから碁に興じ、たっぷり楽しみ、昼食を済ませて杉の宿を後にした。

(矢田 廣/記)



## 麻雀

7月9日(土) 部会員21名が参集。喋々発止の戦いに挑んだ。初回トップの座を獲得した5氏は二回戦以降手加減(?)したのが祟り、最高で8位に止まったのに反し、コンスタントにプラスを重ねた各氏(以下敬称略)が上位を占めた。

優勝 原 明 準優勝 吉村善智 3位 出口泰男 4位 蔭山康夫 5位 大矢和親 6位 木村 滋。

8月27日(土) 恒例の世田谷、渋谷、目黒三区の稲門会合同の親善大会を当部が主催し渋谷で開催。参加者32名。世田谷ルールを有効に活用して、下記メンバーが上位入賞。

準優勝 脇坂元彦 6位 河村卓郎 7位 奥田 隆 11位 江口 力 12位 山本英親。

9月10日(土) 残暑の厳しい日であったが、腕自慢口達者26名が参加。先頃の世間同様二極分解の様相を呈した結果、優勝 吉村善智 準優勝 奥田 隆 3位 暮田忠男 4位 高橋 毅 5位 秋元孝禧 6位 竹村 晃。

10月16日(日) 好天絶好の行楽日和。参加者24名。勝負は前半の貯金を最後迄手離なさず奥田氏が他の猛追をかわして逃げきりの辛勝であった。優勝 奥田 隆 準優勝 脇坂元彦 3位 阿部信之 4位 蔭山康夫 5位 有利純太郎 6位 寺澤隆夫

11月19日(土) 快晴 参加者25名。今回は毎回上位のメンバーが替わる目まぐるしい展開と成ったが、上位入賞者は、優勝 阿部信之 準優勝 郡山弘文 3位 草野昭次 4位 江口 力 5位 吉村善智 6位 長谷川義樹。

(下谷内 堯/記)

## ゴルフ

第44回は9月16日千葉の習志野カントリークラブ・クイーンコースにおいて開催。当日は、まだまだ残暑の厳しい中、38名の参加者が熱戦を繰り広げると共に、フェアウェイのボール横まで乗用カートが乗り入れられるという素晴らしい緑の絨毯上での一日を楽しみ、次の方々が優勝及びベスト賞の栄誉に輝かれました。

総合優勝：青木誠司さん、グランドシニア優勝：豊田 宏さん  
レディースベスト賞：沼田宣子さん

さすが尾崎プロ3兄弟を育てた非常にタフなコースでのプレーとなりましたが、このコースでのプレーには習志野CC競技委員でもある代表世話人森さんにご尽力を頂きました。



左から 沼田さん 青木さん 豊田さん

続きまして、11月17日には第45回コンペが名門飯能ゴルフクラブにて開催されました。今年度最終戦となりましたが、晴天とは言え非常に寒い一日でしたが、41名の参加者が紅葉のもとに楽しく最終戦を繰り広げ、次の方々も難しいグリーンを制し栄冠を勝ち得ました。

総合優勝：土倉享一さん、グランドシニア優勝：守谷之男さん  
レディースベスト賞：森 春野さん

コンペ後のパーティでは来年の健闘を誓い、和気藹々と今年度の打ち上げが行われました。

また、新たに世話人として高橋 毅（会計担当）さんが加わりましたのでどうぞ宜しくお願いします。

平成18年度初回コンペ（第46回）は4月4日（火）中津川CCにて開催いたしますので多数の方々のご参加をお待ちします。



左から 守谷さん 森さん 土倉さん

（熊谷 慶紀／記）

## ボウリング

当部会は毎月1回、第3または第4日曜日に、渋谷稲門会と合同して、世田谷オークラブで例会を開催しております。最近の活動実績次の通り。

7月31日（日）参加者17名 高得点ベスト3

181点佐山順孝 148点齋田祐二 136点加藤隆夫

佐山さんが絶好調、スピード豊かコントロールも良く、5ストライクを出して自己新記録

8月28日（日）参加者15名

153点山口進吾 131点高橋善一郎 129点宮木甫

山口さんが絶妙の制球力で、最終3フレームで60点を挙げたのはお見事。

9月25日（日）参加者10名

134点武藤哲 125点山口進吾 122点江口力

今回は何故か？皆さん得点伸びず、談笑しながらの楽しい投球。

10月16日（日）参加者10名

135点新井武 124点山口進吾 122点高橋善一郎

新井さんが右腕痛をおして久しぶりの参加、流石は実力派大健闘。部会古参の和田全正さん体調回復して2年ぶりの参加。元気な投球を見せて全員拍手喝采。

ボウリングは最高の熟年スポーツ。3ゲーム約1時間半の投球は疲労感も少なく最適な運動。終了後、昼食を共にしながら四方山話に花を咲かせるのも楽しいもの。生活習慣病の予防、ストレスを解消して元気な毎日を送るためにも、さあ皆さん！レッツ・ゴー・ボウリング！！ 部員挙げてお待ちしております。（武藤 哲／記）

## カラオケ

当部会は発足後4年目となり、部会員数も43名となりました。最近の活動状況を二例紹介しましょう。

「カラオケ旅行」年1回の特別部会、1泊旅行を9月19日～20日に実施しました。目的地は湯の里箱根強羅、宿は世田谷区の指定の保養施設アサヒホテル、参加者は先ず掛流しの銘泉でお肌を磨いた後、地元懐石料理を楽しみ、愈々カラオケタイム、ホテルのサロンを借り切り一杯やり乍ら各自の持ち歌を披露最後は校歌斉唱で締めました。翌日は朝食後、現地解散でしたが付近を観光する人、ゴルフを楽しむ人等、様々でした。ここでゴルフ組のエピソードを一つ。部会最長老の内藤先輩（満百才）が、プレーはしないが是非コースを見たいとのことでゴルフ組に奥様と同行、みんなの要請で始球式をすることになりました。奥様に杖を預け、K氏よりクラブを借りて素振りの後一振した打球は、何とコースのド真中に160ヤードの見事なティショット、周囲にいたキャディやコース関係者から一齋に大きな拍手が沸き起こりました。

「第21回例会」11月20日に拠点である用賀のドレミファクラブの個室を借り切り、例会を開催、参加者は18名でした。当日は総会も兼ね、活動状況や会計報告の後、カラオケ三昧、クラブ手製の軽食や、フリードリンクを楽しみ乍ら一人平均6～7曲を唄い切りました。

内容は、ナツメロあり新曲ありと賑やかで、最後は全員で“憧れのハワイ航路”を斉唱して散解しました。（蒲原信一／記）

## ウォーキング

9月28日古都鎌倉巡りに北鎌倉駅へ14名が集合。久しぶりの一日コース。曇り空で風も少しあり、暑さもたいした事が無さそうで行楽日和。歩くには絶好な条件が揃い、いざ出発。

まずは、駅前の円覚寺。およそ700年前に、二度の蒙古来襲を撃退した北條時宗が両軍の死者を弔い、己の精神的支柱となった禅道を広めるため建立した。

かけこみ寺の東慶寺（かけこんで、三年修行すると離縁できた）。そんな先入観でみるせいか、ほかの寺院にくらべると、なにか女性的なやさしさを感じる。

浄智寺、明月院（アジサイ寺）とまわり、昼食をなんの変哲もない個人の住宅のようなレストラン「橋」で摂る。案外美味だ。

午後は建長寺。鎌倉五山の第一位。北条時頼五代執権が建立したわが国最初の禅寺。池と禅の修業の宿舎が新しく造られていた。左手おくに進むと半僧半俗姿（いわゆる天狗の姿）の半僧大権現を祭っている。再び、鎌倉街道より巨福呂坂洞門（昔は鎌倉へ入る唯一の切り通し）を通り、鶴岡八幡宮に向かう。

若宮大路の突き当たりに、緑濃い樹木に包まれて、朱塗りの社殿が立つ。赤い大きな鳥居をくぐると、すぐ左右に源平池がある。また、「段葛」は源頼朝が妻政子の安産を祈願して本宮までの坂道を一段たかく、そして平坦にして、鶴岡八幡宮に近づくにしたがって、道幅をせまく遠近法を用いて距離を短く感じるように造成した。鎌倉の人気スポットを歩いたせいか、どこへ行ってもかなりの混雑でした。四季折々の鎌倉の良さがありアジサイの頃に、再度チャレンジしてみたいですね。今回のウォーキングは、歩きより拝観を主体としたため、歩行2時間、昼食30分、拝観2時間30分、合計5時間かかりました。皆さんも、一緒に歩きませんか？楽しいですよ！！

（新井 武/記）

## ブロック会だより

## キャロット

暑気払いを兼ね久しぶりに懇親会を開催しました。時は未だ残暑厳しい9月7日(水)の夕方6時からの2時間。場所は三軒茶屋の中華料理店 燕来香。参加した会員は二十名。

会報29号で報告のとおり、キャロット会では来年6月にワセダ出身の芸人の『真打ち』昇進の落語演芸会の開催を予定しています。

席上、この落語会の企画を推進している落研OBの富塚兆弥さん（41政）からこれまでの進行状況などの経過報告があり、方や9月11日の衆議院選挙の投票日直前とあって各自、談論風発、楽しい会になりました。

（萩原 健/記）



## きぬた

第4回 日時 10月7日(金) 17時30分より  
場 所 レストラン「成城マ・メゾン」  
講 師 露木茂氏（昭38年政経卒、きぬた会会員）  
参加人数 21名

今にも雨が降り出しそうな3連休前の金曜日の夜なので、参加者の集まりに不安を感じた当日でしたが、講師の知名度と熱心な会員に支えられ、会場一杯に21名の参加を得て盛況の会となりました。特に今回は女性が5人（犀川千代子さん、荘司真恵さん、富永孝子さん、本橋真知子さん、安井寿々代さん）も参加され、ひときわ華やかさを加えられました。露木さんのお話は、9月11日の総選挙で自民党が圧勝した点について、永年のTVキャスターとしての経験とその立場から、画期的に変わった選挙作戦を分析してみせてくださいました。例えば衆議院解散から選挙公示までの時間を21日間と長く取り、その間、TVのワイドショー好みの話題作りに、自民党が作戦として成功したことを具体的な事例で、おもしろく、わかりやすく説明されました。（くわしく内容をお伝えできなくて残念です。）

講演後は例によって飲み食べの宴となり、すっかりおなじみとなった会員同士で盛り上がった、秋の夜のひとときとなりました。

（宮木 甫/記）



## 西 北

第10回西北会は9月26日(月)17時30分より、お馴染みの新日鉄「代々木倶楽部」にて開催。今回は竹松昭一氏(昭24法)に「私の生きてきた道」と題して講演を頂いた。

お父上が上海で中国人労働者数百人を使用する染色工場を運営されていた関係で揚子江で産湯を使い、戦時中の日本と中国を行き来され、世間では知られていない数々のエピソードをお聞きする事が出来た。

氏は旧制尋常高等小学校、旧制県立中学校そして早稲田の旧制専門部法科と全て旧制最期の卒業生であられ、中学時代勤労奉仕での陸軍の砲弾作り等興味深くお聞きした。



戦後はパンアメリカン航空に成田空港が完成する直前まで勤務され、家族で世界各地を旅行されまだ外国旅行が珍しい時代で参加者各位より大いに羨ましがられました。

知っている事を言うべきか迷う戦中派の方々が大勢おられる中、ごく一部ではありましたがお話をうかがうことが出来ました。

食事はしゃぶしゃぶ懐石を堪能し、和気藹々の談笑の中食事会を楽しみました。次回は忘年会を兼ね12月12日(月)開催予定です。

(松浦 晋三郎/記)

## 玉 川

「愛唱歌の会」のご紹介のご案内

私たちは、小さいときからいろいろな歌を歌ったり聞いたりしながら育ちました。小学校・中学校では音楽の時間もあって、歌が好きな人も得意でない人も教科書に載っているものは誰でも記憶の中にしまっています。「愛唱歌の会」はそんな懐かしい歌を中心に歌おうと、2005年4月から月に一回開いている集まりです。大体毎回10数名の参加です。会場は奥沢駅至近の「奥沢東地区会館」の地下の大きい部屋なので玉川会全員がいらしてもダイジョウブです。常設されているピアノを私が弾いて、皆さんと歌っています。

12月は17日(土)、1月は7日(土)、ともに15時半～17時半です。

会場費として¥100お願いしています。

テキストとして、のぼら社発行の「愛唱名曲集」(¥1,000)を使っています。書店・楽器店で簡単に手に入ります。

できればいらっしゃるときにご用意ください。

(山本厚子・愛唱歌の会世話人/記)



## さ くら

平成17年10月16日(日)11時30分より桜新町のイタリアンレストラン「ラピアンタ」にて本部より鈴木幹事長、川村事務局長の出席も含めて参加者総勢19名で開催。今回初めてさくら会に参加された方々(高橋悦男、高橋昇三、堀龍児、大道映子の四氏敬称略)の自己紹介の後、さくら会の議題に入る。

①さくら会にて、高橋悦男早稲田大学名誉教授のご指導を頂き10名程度でスタートする俳句の会を立ち上げる。第一回目は12月13日(火)1時より3時まで、桜新町区民集会所で開催。②能楽鑑賞の集いは取り敢えず10名に達せず3名の参加に止ったので部会としての設立は当面見送る。③一年以上継続している桜新町区民集会所で開催しているパソコン同好会にさくら会からも出来るだけ多く参加する。④さくら会の写真部会は解散し本部の写真部会と合体する。⑤従来の音楽鑑賞部会はオペラ、シャンソン、ピアノ演奏等の鑑賞を推進する。また出席者の岡村喬生氏より楽しいオペラのお話もあり、音楽談義に花が咲いた。次回のさくら会会合は二月中旬頃を予定している。

(矢田 廣/記)

# 「会員のひろば」

## たかがゴルフ

### されどゴルフ

#### 年一二〇回ラウンド

森 昌治(昭和三十八・商)

(ゴルフ部会世話人代表)

東富士カントリークラブの一番ホール、ティショットは、四番アイアン。空振りであった。昭和五十四年十二月二十二日。これがゴルフとの初めての出会いであった。四十才と一ヶ月、それまでゴルフは、年寄りの遊びと決めこんでいた私も断り切れない理由があり第一歩を踏み出した。その日は、1.5ラウンドし、スコア

は88、79、75。なぜかグリーンにのると経験者と互角にパットが出来た。子供の頃からゴムのパチンコや空気銃などの物をねらった遊びが好きで大学に入ってすぐ弓道をはじめたのもそんな理由からである。若い頃にゴルフを年寄りの遊びと決めこんでいたのも当時の状況では、お金もヒマもなかったからで、どうせやるなら上手になりたいとの願望があった。弓道を通じて、



どんなスポーツも上達の早道は、短期間に集中的に良い指導者のもとで実践することであるとの信念を持っていたからである。四十才というのは、私にとってちょうど良い年であった。生来私は負けず嫌いで、や一途なところが有り当面のターゲットは若くしてはじめて

の成功である。東富士カントリーの初ラウンドからのスコアは、私のゴルフ手帖と称してすでに十二冊目に入っているが各ホールのスコア、パット数、同伴競技者名など結構こまめにまとめてあり今に続いている。それによれば昨年末までに一八八八ラウンド。二十六年間で平均72・6ラウンドプレイしたことになる。退職時挨拶の中でいづれシングルにしてみせると言った手前、退職後のラウンド数は、ほぼ年百二十回におよびその結果当時十一だったハンデいは、八となった。これも短期集中型の成果だろうか。いくらヒマがあるからとはいえず日に一度のゴルフはやりすぎだと思われるかも知れないが、止まっているボールをクラブをただ上げておろして打つその所作に技術的に奥の深いものがあり興味はつきない。いずれ体が動かなくなる時が来るのだからそれまでは徹底的にやっけていく所存である。

## 中国東北三省を訪ねる旅

水島 豊(昭和四十・政経)

八月七日より十四日まで、東京都日中友好協会主催の旅



に参加し、北京・哈爾濱(ハルビン)・長春・瀋陽(現地では沈陽)・大連の各地を見学してきました。総勢二十五名、うち世田谷稲門会より麻生卓司夫妻、岩上健一夫妻、柏良子、関根昌一、細澤勲、松浦晋三郎、松村秋森夫妻、水島豊の十一名が参加しました。日中関係は、反日感情や嫌中感といったマイナス面だけが強調される厳しい情勢が続いておりましたが、実際に現地を訪れてみますと、反日感情を持っているのはごく少数の人達であり、殆どの人は日本との友好関係の継続を強く望んでおり、どこへ行っても大歓迎でした。北京で二泊して哈爾濱に入

りました。中国最北の大都会で黒龍江省の首都の哈爾濱、満州国の首都だった頃は新京と呼ばれ、皇帝溥儀の宮殿をはじめ、旧満鉄ビルや関東軍司令部など当時の建築物が多く残っていた長春、上海・北京・天津に「北の真珠」と呼ばれ、アカシア並木の美しい異国情緒の大連など、魅力に溢れておりました。今回も北京市人民対外友好協会の職員が全行程随行し、お世話してくれましたが、本当に最後まで和気藹々とした楽しい旅でした。

## 病い雑感

前原 祖彦

(昭和二十五・理工)

昨今世の中の変化が著しい時代となりました。その中で年々変らないのは年を重ねる事による病いを始め諸々の不安です。新聞に載る死亡欄を見てその方の年令・死因等色々臆測します。十一年前に中学時代の学友で直木賞作家の胡桃沢耕史君が喉頭癌で他界しました。彼は煙草アル



コール類は一切口にしませんでしたが肉類が主で野菜を食べないという偏った食生活でした。古来より老來の疾病は総て是れ壮時に招きしものなりとありますが所謂今日言われる生活習慣病でしょう。心臓や脳血管障害は或る程度予知が可能ですが癌は細胞の変異か何種類かの危険因子の複合によるものとの大方の見方からすれば



仲々防ぎ様のない宿命的なものという感じもします。同じ学友で東大医学部で病理学を専攻し癌センターに勤務した彼に癌への対応を聞きまし

たら「其の部位や性質によるが徒らに苛めてはいけない。共存するんだ。その為には自然治癒力を高め長く付き合う事だ」と言いました。実は私は前立腺癌があり月一回のホルモン注射で小さくし共存しています。癌よりむしろ望ましくないのは脳疾患による後遺症で介護や長期入院を余儀なくされ本人はもとより家族や周りの人に負担をかける事

です。私は過去数度の入院を体験しましたが幸い良い医師に恵まれお陰様で今日在る事を考えますと廻合せ次第が寿命に影響するのではないかと思っています。昭和二十一年二月第一高等学院理科に在学中期末試験が終わった直後激しい頭痛と高熱で床に伏しましたが四日経っても熱が下がらず近所の女医が往診の結果当時流行した発疹チフスの疑いありとの事で直ちに東京女子医専に入院しました。続く高熱により脳症と肺炎を併発し約半月間全く意識がなく地獄をさ迷っていました。時恰も

終戦後で医薬や食糧が乏しい最悪の時期でしたが父が付き切りで看護してくれた上に内科部長と担当の女医の献身的な治療により漸く生き帰れました。

昭和三十九年に十年間苦しんだ胆石の摘出手術をしました。偶々学友が慶應病院に居たので執刀を頼みました。彼は私の都合を聞き入院日迄は普通の生活をし体力をつける様言いました。その為術後の経過が順調で二週間で退院しました。つまり体力の蓄積が

早い回復につながったと思うと術前の長期検査は体力・気力を消耗させ回復を遅らせるものと思えます。時々報道される医療事故を見るにつけ生命を預ける患者は実力のある信頼に足る医師を選ぶことに尽きます。

岡村喬生さんのオペラ応援を

前例に無いこと  
時期尚早なこと

栗山佳三(昭和二十七・商)

前例に無いことという言葉がありますね。綿貫さんや亀井さんが読み違えたやつです。勿論小泉さんの衆院解散です。本当に彼でなければ出来なかつたことだと私も思うものですね。また二十年近く前になる



でしようか「時期尚早」とい

われながら、日本にサッカーを普及させ、ついに協

ないものです」と。彼が日本サッカー協会を立ち上げた時



彼のされていることは正に「時期尚早」とか「前例のないこと」なのだと思います。先日私の見た「魔笛」でも岡村さんのトークはやさしく「解説」というか、「ナレーション」でオペラそのものを判りやすくカバーしてくれました。私は友人から「お前には、あのオペラはわからんぞ」と脅かされていましたが、本当のところ少し心配していたのですが、私のような音痴でも良くわかり楽しいひと時を過ごすことが出来ました。今後色々な企画があるようですので、稲門会としても、流石友情の厚い校友会だということになるようご支援いただきたく存じます。

み、五十五歳のとき関連会社への出向を求められ、それならば、日本サッカーファンの為に一肌脱ごうかと決意を固め「協会」の設立へと動いたのです。

とところでご存知のように、当世田谷稲門会に、日本の「オペラの大衆化」「質の高いオペラを低廉な親しみ安い料金で提供しよう」と、献身的な努力をされている岡村喬生さんがおられます。

料金も本場にびつくりする程低廉な三千円からです。また会場も渋谷から半蔵門線で三十分余りの「住吉駅」下車、徒歩五分くらいの処で極めて便利などころにありました。こうした一個人への応援は「前例の無い事」かも知れませんが、他にも応援したい音楽関係の方も居られますが、今回は「岡村喬生さん」の紹介にさせていただきます。

## 新入会・休会・退会の正誤・住所移転等のお知らせ

「名簿（平成16年4月発行）・会報29号記載事項」以降（敬称略）

(新入会員)			
氏名	卒年・学部	住 所	電話・FAX
1. 亀山 寿夫	昭42政経	個人情報につき不掲載	
2. 橋本 大道	昭36政経		
3. 日浅 伸廣	昭49法		
4. 高橋 昇三	昭40法		
5. 山根 基世	昭46文		
6. 堀 龍児	昭41大阪市立大法 (早大大学院法 務研究所教授)		
7. 伊藤 誠三	昭36理工		
(休会員)			
1. 小林 皓一	昭36法	2. 三輪 久美子	平15社会
(退会会員)			
1. 志水 洵一	昭30政経	2. 花柳昌三郎	
3. 近藤良太郎	昭45理工	4. 堀内 知信	
5. 川上 矩生	昭37政経	6. 松尾 高志	



## 編集後記

今年の当会での出色は内藤先輩が満百歳を迎えられたことでした。新年会に始まる3イベントも成功裡に終わりました。会報の出来については賛否がありました。編集部は精一杯がんばったつもりでおります。どうぞ次号以降についても会員諸兄のご協力をお願いします。

どうぞ良いお歳を！！

(細澤 勲)

今年も会員による色々な催しや、趣味及びスポーツの部会活動が展開され、皆様にはそれぞれに楽しい思い出を作られた事と思います。

編集部ではこれからも皆様の協力をえて、読んで楽しく参加したらもっと面白くなるクラブ活動を紹介して参りますのでご期待ください。

それでは  
ハッピー ニュー イヤー！

(江原 利次)

今年は世界各地での自然災害が特に多かった気がします。古典ジャズが大好きな私にとって、ハリケーンによって壊滅的な打撃を受けたニューオーリンズの被災地の映像はとくにショックでした。

4月に演奏仲間たちと訪れたジャズの故郷「New Orleans」の一日も早い復興を祈念しています。

自然に優しい地球でありますように。

(寺島 邦夫)